

歴史【大崎】

現在の大崎二丁目・大崎三丁目の地域は目黒川を望む高台であり、古くから栄えていたと考えていました。西品川三丁目付近を含むこれらの地域は居木橋遺跡と呼ばれ、縄文時代の土器や貝塚などが出土しています。(居木神社の貝塚もその一つです)

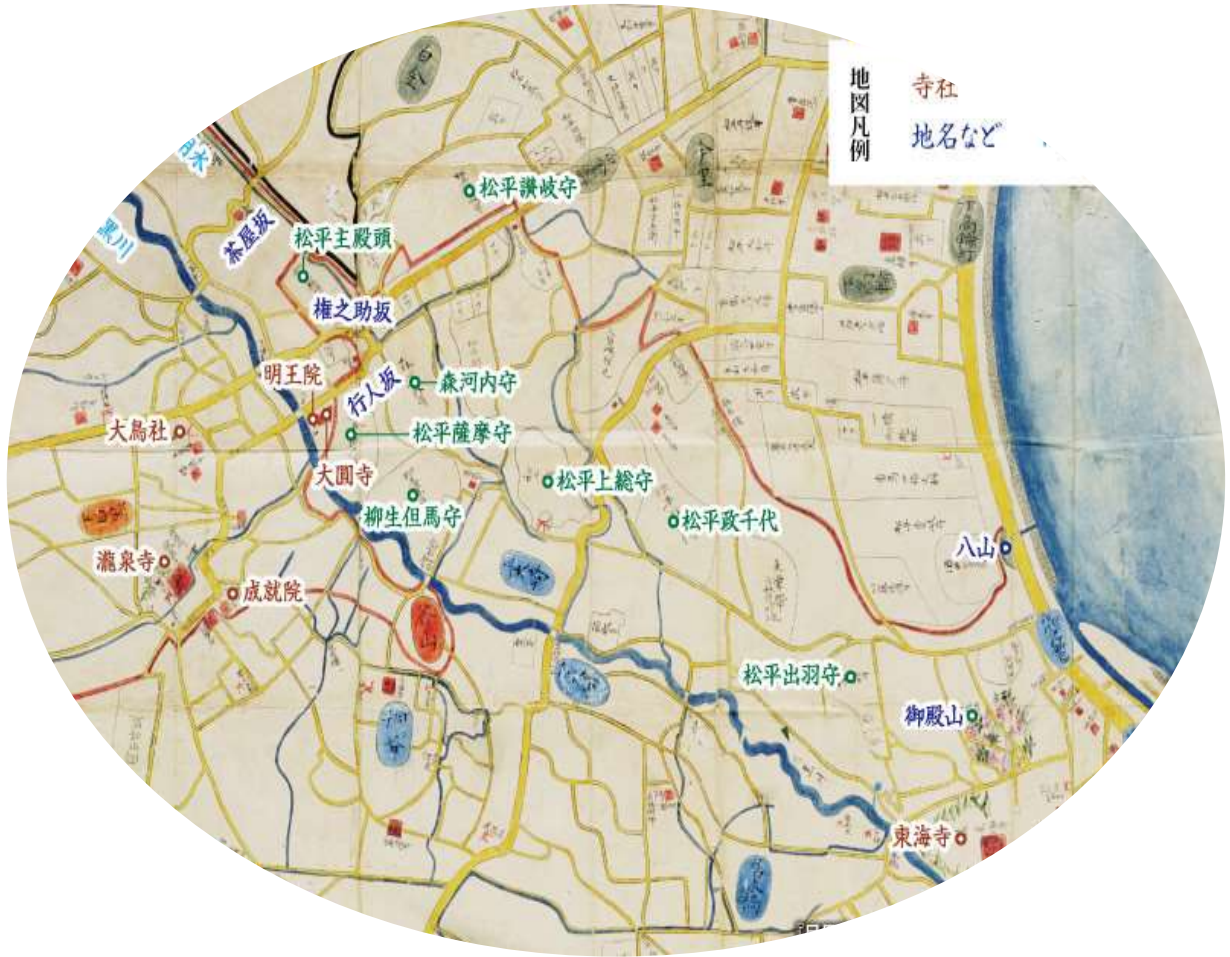
室町時代には、品川宿から多摩地域への街道のため、目黒川に居木橋（いるきばし）がかけられました。現在の居木神社周辺に集落が形成され、大崎という地名が現れたのは江戸時代という説が有力です。地名は秩父から続く尾崎であることに由来し、これが転訛して大崎となったとする説、および過去に大きな崎（岬）として東京湾に突き出ていたためとする説が知られています。ただし当時大崎と呼ばれていた地域は、現在の JR 目黒駅近辺（上大崎村）から五反田駅北側（下大崎村）にかけてでした。

1889 年（明治 22 年）の市制町村制施行により、荏原郡上大崎村、下大崎村、桐ヶ谷村（現西五反田四丁目から七丁目付近）、谷山村（現西五反田三丁目から二丁目、大崎四丁目付近）、居木橋村（現大崎一丁目から三丁目付近）が合併して、大崎村ができました。1901 年（明治 34 年）大崎駅が開業。1908 年（明治 41 年）に町制施行で大崎町になる。1932 年（昭和 7 年）に東京市に編入され、旧品川町、旧大井町の区域と共に品川区になる。旧大崎町の区域は上大崎、下大崎、五反田、大崎本町、西大崎、東大崎などの町名となった。1967 年（昭和 42 年）に住居表示が実施され、大崎駅周辺の東大崎の区域が大崎一 - 五丁目となり、上大崎以外の町名は西五反田と東五反田と再編されました。

大崎駅周辺の大崎地域は、山手線沿線としては比較的地味な存在であった。しかし 1980 年代に入るとフジテレビ本社の移転候補地の一つとして名前が挙がるなど、徐々にではあるが注目されるようになりました。そして 1980 年代後半より事業が始まった大崎駅東口地区の再開発によって、大崎ニューシティ、ゲートシティ大崎などの複合施設が相次いで開業し、東京副都心の 1 つとしてにわかに脚光を浴びるようになったのです。

さらに大崎駅への埼京線乗り入れ、東京臨海高速鉄道りんかい線開通、湘南新宿ラインの運行開始などにより、品川と並ぶ山手線南端の交通結節点となりました。現在、大崎駅西口最後の再開発が進行しており、2007 年 10 月には明電舎跡地に ThinkPark（地上 30 階）がオープンし、2011 年 7 月には、ソニー旧大崎西テクノロジーセンター跡地に NBF 大崎ビル（旧：ソニーシティ大崎・地上 25 階）がオープンしました。また、2014 年 1 月には大崎西口地区最後となる大崎ウィズシティ（地上 24 階）が竣工し、10 月には大崎西口公園が開園、そして残る交通広場には 2015 年 12 月に大崎駅西口バスターミナルが整備されました。

私たちが住む大崎は、大崎駅周辺の再開発によってできた高層マンションに住む新しい人々と、学校や神社がある高台に昔から住む人々が、学校や地域の様々な行事、また、防災活動などを通して交流を深めることのできる「新しいまち」に生まれ変わりました。



明治44年頃